

..... 編集後記

◆3月28日夜、スマトラ沖で再びマグニチュードM8.7の大地震、「え!まさか」と一瞬耳を疑いました。幸いにも今回は大規模な津波の発生はなかったようですが、被害が少なくあってほしいものです。それにしても自然の驚異に愕然とさせられました。日本でも南海トラフ沿いの大地震、東海地震・東南海地震・南海地震が連続発生する可能性が指摘されていますが、それを連想させる出来事でした。

暗いニュースが続きますが、もう一息で桜が開花、心うきうきする季節となってきました。卒業・就職に、進学、転勤とあわただしくお過ごしの方も多いと思います。

◆さて、本号は昨年10月に、つくばで開催された「第41回CCOP(東・東南アジア地球科学計画調整委員会)年次総会」の特集号となりました。

この特集では、まず地質調査情報センターの松林氏が、CCOPの歴史や活動・今回の年次総会開催に至る経緯、そして総会の概要について紹介されました。丸井・斎藤氏は、地下水や沿岸域デルタをテーマとした年次総会の技術セッションでの活発な議論の様子を報告されました。角井氏は年次総会での国際機関・学会・国内の機関や企業などによる総合展示会の様子を、笹田氏は筑波山から稲田にかけての花崗岩と日本文化をテーマにした楽しそうな総会巡検の様子をレポートしてくださいました。

国際貢献の重要性が叫ばれる今日、旧地質調査所から産総研への移行で心配されたCCOPへの対応、産総研に確実に引き継がれたようです。

◆特集以外では、高田氏がCCOPのプロジェクトの1つとして実施した「火山災害軽減のための野外ワークショップ」の様子を紹介してくださいました。東南アジアの火山国の若手研究者による交流はきっと火山災害の軽減に大いに役立つことでしょう。

◆石原特別顧問の南西アフリカ・ナミビアの花崗岩類と鉱物資源は、日本ではお目にかかれぬめづらしい写真や話題がどっさり、表紙・口絵の美しい写真とあわせご覧下さい。

◆内田氏ほかの皆さんは新しく発行される「水文環境図」について、仙台地区での調査やデータを例に分り易く解説されました。

◆加藤氏によるみちのく石便りはその5で宮城県内のさまざまな奇岩・奇石の紹介です。

◆地質標本館だよりでは、2004年度に実施された特別展や野外観察会、3回の普及講演会の様子が紹介されました。

新刊紹介では小池一之ほか著「日本の地形3東北」が、磯部氏によって紹介されました。

◆特集号が続きましたが、来月はさまざまな話題の一冊となりそうです。皆様の投稿をお待ちしております。(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：山本茂男

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3603

Fax. 029-861-3602

地質ニュース	第608号	2005年	4月号
	定価¥785(本体価格¥748) 千実費		
	2005年4月1日 発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2005 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ